

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

東北大学

前期日程

科目

生物

総括

試験時間	2科目 150分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	理・農 300、医 250、保健・歯 200(2科目)	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

大問数は昨年同様3題であった。教科書で学んでいることを総合的に理解して、まとめる力を確認する問題が中心であった。

〈特記事項・トピックス〉

図を用いて説明する問題が出題された。

メントールに対する反応や人工内耳などヒトの生活に関わることが出題された。

行数が多い論述問題が多かった点は昨年同様であった。

〈合格への学習対策〉

生物の用語や問題の題材などは教科書レベルのものが問われるので、まずは教科書レベルの基本的な内容を正確に理解しておくことが大切である。教科書で扱っている用語は答えることができるようにしたい（高校で扱うすべての教科書にはない用語を問われることもある）。論述問題が多いので教科書で学習した内容を理解し、文章にまとめる力を養っておきたい。論述問題は長文の答えを求める問題が多いので、用語を含めて正確に説明ができることが重要である。また、実験データをもとに考察する問題も出題されるので実験内容を理解、データを分析する力が要求される。そのために同様なタイプの問題を出題する国立大学の2次試験の問題も使って練習しておくといよい。生物の教科書にある説明だけでなく、図の部分の理解も問われるので、注意が必要である。また、計算問題が出題されることがあるので条件に応じた計算ができるようにしておこう。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
1	選択 記述 論述	生物 生物基礎	細胞の機能 遺伝情報の複製と分配	細胞小器官の構造と働き 細胞骨格の構造と働き DNAの複製（酵素の働きなど） 細胞周期におけるDNA量の変化 真核生物の核DNAの構造	やや易
2	選択 記述 論述	生物	動物の反応	皮膚の受容器 興奮の伝導速度 マウスの皮膚感覚の経路 刺激の受容における受容器細胞の変化 メントールによる冷覚のしくみ 皮膚感覚の受容部分と脳の感覚野の面積の関係 うずまき管における音の受容 人工内耳のしくみ	標準
3	選択 記述 論述	生物 生物基礎	生態系における物質循環	地球環境の変化と生物の移り変わり 生態系における窒素の循環 共生説と、その根拠 ルビスコの働きと酸素による競争的阻害 地球環境の変化におけるルビスコの働きの変化 光合成色素の吸収スペクトルと光合成の作用スペクトル 大気中の二酸化炭素濃度上昇と、その原因	標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。